(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2009-173000
(P2009-173000A)
(43)公開日　平成21年8月6日(2009.8.6)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
B42D 15/10 (2006.01)	B42D 15/10 551B	2C005

審査請求 有　請求項の数 5　ＯＬ　（全 7 頁）

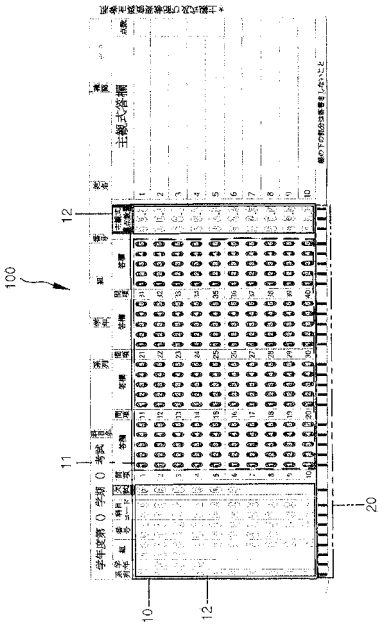
(21)出願番号　特願2008-159725 (P2008-159725)
(22)出願日　平成20年6月18日 (2008.6.18)
(31)優先権主張番号　10-2008-0007698
(32)優先日　平成20年1月24日 (2008.1.24)
(33)優先権主張国　韓国 (KR)

(71)出願人　508183896
キュ－イル，ピョン
Ｇｙｕ－Ｉｌ，Ｂｙｅｏｎ
大韓民国，テジョン，ソ－グ，ウォルピョン－ドン　６５３
６５３　Ｗｏｌｐｙｅｏｎｇ－ｄｏｎｇ，Ｓｅｏ－ｇｕ，Ｄａｅｊｅｏｎ，Ｒｅｐｕｂｌｉｃ　ｏｆ　Ｋｏｒｅａ

最終頁に続く

(54)【発明の名称】不正行為防止用ＯＭＲカード

(57)【要約】
【課題】不正行為防止用OMRカードを提供する。
【解決手段】本発明は、正面以外のほかの角度から見る場合、マーキング部のマーキング識別が容易でないように構成されて、不正行為を防止することができる構造の不正行為防止用OMRカードに関するもので、このために、答案表示部を含むマーキング部から構成されるOMRカードにおいて、前記マーキング部の答案表示部は、暗影形態のベースから構成されていることを特徴とする。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
答案表示部１１を含むマーキング部１０から構成されるOMRカード１００において、
前記マーキング部１０の答案表示部１１は、暗影形態のベースから構成されていることを特徴とする不正行為防止用OMRカード。
【請求項２】
前記数字表示１１２は、空白から構成されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の不正行為防止用OMRカード。
【請求項３】
前記数字表示１１２は、白または他の色で印刷されたり、スクリーン処理されていることを特徴とする特許請求の範囲第１項または第２項に記載の不正行為防止用OMRカード。
【請求項４】
前記答案表示部１１の暗影ベースは、黒のドット１１１が印刷されたり、スクリーン処理されて構成され、その濃度は、５０％ないし８０％であることを特徴とする特許請求の範囲第１項に記載の不正行為防止用OMRカード。
【請求項５】
前記マーキング部１０は、判読機で認識されないようにプリントコントラストシグナルの数値が０．４以下であることを特徴とする特許請求の範囲第１項に記載の不正行為防止用OMRカード。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、不正行為防止用OMRカードに関するもので、正面以外のほかの角度から見る場合、マーキング部のマーキング識別が容易でないように、マーキング部のベースの色を暗影の黒いドットで構成して、マーキング時、他の人の不正行為を防止することができる構造の不正行為防止用OMRカードに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
一般的に、光学マーク判読機（Optical Mark Recognition）は、使用者がコンピュータ用サインペンなどの筆記具を利用してOMRカードに形成された多数のマーキング部にマーキングをし、ここに光を照射して透過或いは反射された光量の値を受光素子で検出して表記された部分を判読する装置で、採点が迅速かつ正確で、試験答案紙或いは統計分析資料の入力用に主に使用されている。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかし、現在OMRカードは自体の色が明るい色から構成され、マーキングするコンピュータ用サインペンは暗い色である黒からなるところ、その表記された内容が６m以上の距離からでも容易に見えるため、不正行為がひどく、その弊害も深刻な水準である。
【０００４】
前記の不正行為を防止しようと、問題用紙の問題項目をかえて2種類以上の問題用紙で試験を受けたり、一部ではとても広い場所を渉外して前後左右の間隔を広めて試験を受けければならないという問題点があった。
【０００５】
しかし、前記の方法では根本的な不正行為防止をすることができないという問題点があった。
【０００６】
従って、狭小な場所で最小の人員で不正行為を源泉的に防止することのできる構造のOMRカードが求められる実情である。
【課題を解決するための手段】

【０００７】
本発明は前記のような問題点を鑑みて案出されたもので、本発明は、答案表示部を含むマーキング部から構成されるOMRカードにおいて、前記マーキング部の答案表示部は、暗影形態のベースから構成されていることを特徴とする不正行為防止用OMRカードを提供することにある。
【発明の効果】
【０００８】
本発明による不正行為防止用OMRカードは、正面以外の他の角度から見た場合、答案表示部のベースの色とコンピュータ用サインペンで表記されたマーキングが肉眼で区分することができず、不正行為を防止することができるという特徴がある。
【０００９】
従って、不正行為を防止するために広い場所を渉外せずとも、狭小な場所でも不正行為を防止することができるという長所がある。
【００１０】
並びに、不正行為を摘発するための監督官も最小の人員で不正行為を監視することができるという特徴がある。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１１】
以下では、本発明による不正行為防止用OMRカードに関して添付の図面とともに詳細に説明する。
【００１２】
図１は、本発明による不正行為防止用OMRカードを示した平面構成図で、図２は、図１のマーキング部の拡大斜視図で、図３は、本発明による不正行為防止用OMRカードのマーキング部にマーキングを表示した使用状態図である。
【００１３】
図１及び図３に示したとおり、本発明は、正面以外のほかの角度から見た場合、マーキング部１０の答案表示部１１のマーキング識別が容易にできないように、答案表示部１１のベースを暗影形態のベースで構成して、他の人の不正行為を防止することのできる構造の不正行為防止用OMR(Optical Mark Reader)カード１００に関するものである（図３に図示）。
【００１４】
前記OMRカード１００は、大きく２部分から構成されるのだが、それはコンピュータ用サインペンで表記するマーキング部１０と、前記マーキング部１０のマーキング始点が判読機を通じて認識されるように黒い色で印刷されたマーク部２０とで構成される（図１及び図３に図示）。
【００１５】
ここで、マーキング部１０は、名前、性別、受験番号、試験紙の種類をマーキングする記載部１２と、答案をマーキングする答案表示部１１とから構成され、このような記載部１２と答案表示部１１は、使用者がコンピュータ用サインペンを通じてマーキングできるように円形の枠のようなガイドラインが形成されている構造である。
【００１６】
この時、マーキング部１０のうち答案を表記する答案表示部１１は暗影形態のベースで構成され、数字表示１１２は空白で構成される構造である。
【００１７】
一方、実施例で本発明のマーキング部１０のうち答案表示部１１の暗影ベースは、黒い色のドット１１１が印刷されたり、スクリーン処理されて構成され、その濃度は５０％乃至８０％ぐらいが好ましい。
【００１８】
また、前記数字表示１１２は、白または他の色で印刷されたり、スクリーン処理して、使用者の識別が容易なように構成されるのが好ましい。

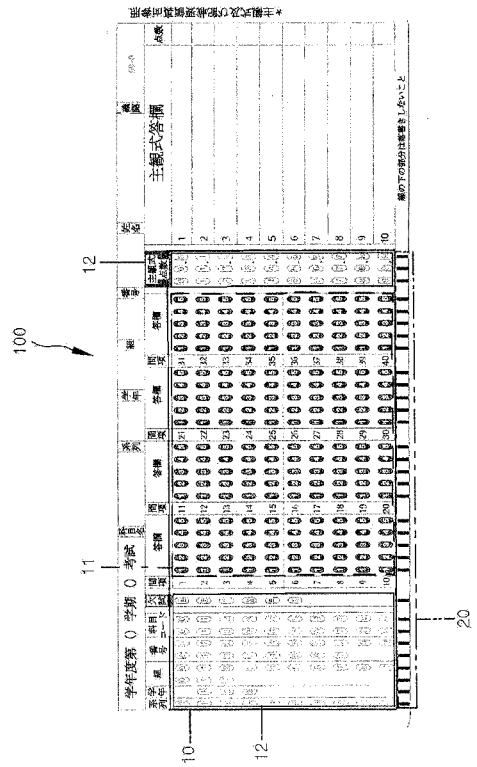
【００１９】
並びに、答案表示部１１の暗影ベースの濃度は５０％乃至８０％に限定するものではなく、室内照明または昼間及び夜間または受験生の前後左右の間隔によってその濃度を１０％乃至５０％、または６０％乃至９０％など多様に構成することができるのは勿論である。
【００２０】
つまり、前記の答案表示部１１の暗影ベースの濃度は、数字表示１１２の識別に影響を与えるところ、本発明の請求範囲に提示された数値は、正面以外のほかの角度から見た場合、答案表示部１１のマーキング識別が容易でない数値であることを明かすものである。そして、マーク部２０は、判読機がマーキング部１０の記載部１２と答案表示部１１のマーキング始点とを感知することができるように、OMRカード１００の棒表示に印刷されている構造である。
【００２１】
このようなマーク部２０は、判読機の性能によって認識され得るようにプリントコントラストシグナル（PCS : Print Contrast Signal）の数値が０．４以上であるのが好ましい。
【００２２】
これは、マーク部２０のPCS数値が０．４以下だと、これを判読機が認識できないという問題が発生するからである。
【００２３】
並びに、マーク部２０のPCS数値は、機器の種類によって判読機のPCS数値が変動され得ることは勿論であり、以下で説明されるマーキング部１０のPSC数値も変動され得るのも勿論のことである。
【００２４】
一方、マーク部２０とは反対に、答案表示部１１は、コンピュータ用サインペンでマーキングする前までは判読機が認識できないようにしなければならないところ、前記答案表示部１１のベースは、判読機で認識されないようにプリントコントラストシグナル（PCS : Print Contrast Signal）の数値が０．４以下であるのが好ましい。
【００２５】
従って、前記答案表示部１１の濃度は、判読機に影響を与えずながら、判読機が認識できないようにPSC数値を０．４以下にするのが先行されなければならない。
【００２６】
よって、図３のように、答案表示部１１にコンピュータ用サインペンでマーキングした場合、正面以外のほかの角度からはマーキング識別が容易でないので、他の人の不正行為を防止することができるのである。
【００２７】
以上でのように、本発明による不正行為防止用OMRカードは、答欄の表記部を区分するために実施例として数字表示で例示したが、これに限定されず、他の実施例としてイ、ロ、ハまたはA、B、Cまたは甲、乙、丙、丁のように他の表記にすることができるのは勿論である。
【００２８】
例え、本発明が前記で言及した好ましい実施例と関連して説明されたが、本発明の要旨と範囲から脱することなく、他の多様な修正及び変形が可能である。従って、添付の請求の範囲は、本発明の真なる範囲内に属する修正及び変形を含むものと言える。
【図面の簡単な説明】
【００２９】
【図１】図１は、本発明による不正行為防止用OMRカードを示した平面構成図である。
【図２】図２は、図１のマーキング部の拡大斜視図である。
【図３】図３は、本発明による不正行為防止用OMRカードのマーキング部にマーキングを表示した使用状態図である。

【符合の説明】

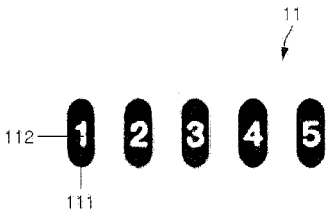
【００３０】

１００：OMRカード
１０　：マーキング部
１１　：答案表示部
１１１：ドット
１１２：数字表示
１２　：記載部
２０　：マーク部

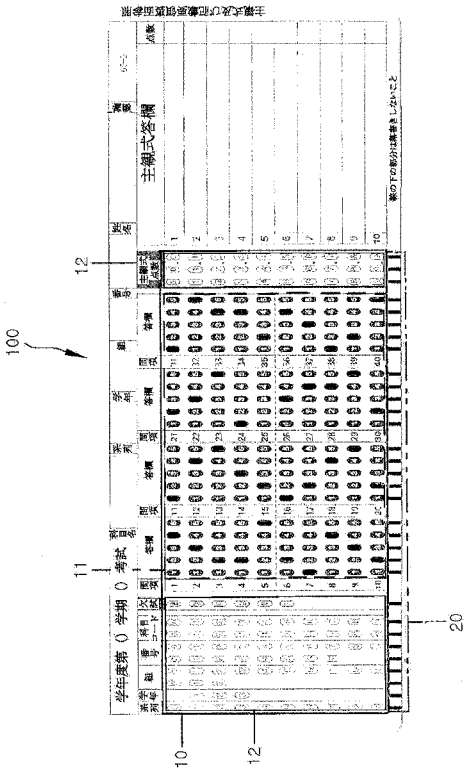
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(71)出願人 508183885
ジュンーホ，イ
Ｊｕｎｇ−Ｈｏ，Ｌｅｅ
大韓民国，ソウル，カンソーグ，ファゴク　３ードン，ファゴク　プリギオ　アパートメント　１３６−２０４
１３６−２０４ Ｈｗａｇｏｋ Ｐｕｒｉｇｉｏ Ａｐｔ．，Ｈｗａｇｏｋ ３−ｄｏｎｇ，Ｇａｎｇｓｅｏ−ｇｕ，Ｓｅｏｕｌ，Ｒｅｐｕｂｌｉｃ ｏｆ Ｋｏｒｅａ
(74)代理人 110000338
特許業務法人原謙三国際特許事務所
(72)発明者 キューイル，ピョン
大韓民国，テジョン，ソーグ，ウォルピョンードン　６５３
(72)発明者 ジュンーホ，イ
大韓民国，ソウル，カンソーグ，ファゴク　３ードン，ファゴク　プリギオ　アパートメント　１３６−２０４

Ｆターム(参考) 2C005 HA01 HB16 JA09 JA10 JB19 JB22 KA01 KA40 KA41 LA24
LB02 LB15